

【俳句の部 曾根干潟と自然部門】

まもろう 生き物の宝庫 曾根干潟 (朝野 里緒)
 曾根東 クリーン作戦 がんばります (朝野 里緒)
 守ろうよ みんなの宝 カブトガニ (那須 裕)
 悠久に 恵み豊かな 曾根干潟 (柏田 知甫)
 カブトガニ 解へる干潟を 寿ぎぬ (耕ちゃんママ)
 初鴨の 足裏に馴染む 曾根干潟 (耕ちゃんママ)
 (翡翠) 翠の 青き余韻の 風通る (耕ちゃんママ)
 総り田の 風は喜び 転ぶごと (耕ちゃんママ)
 曾根干潟 生きてる固鑑 次世代に (小川 明義)
 曾根干潟 生物たちが すんでるよ (與儀南)
 朝露の 舞い立つはても 曾根干潟 (有働道高)
 それひがた いきてるいきもの かわいいな(かじ谷 なお花)
 カブトガニ ちくちくしてて いてそうだ (かしわ田 りり)
 トビハゼが いっぱいおるよ いしのうえにね(野元 なぎさ)
 カブトガニ いっぱいおるよ それひがた (野元 なぎさ)
 カブトガニ いきてるかせき それひがた (こう野 みさき)
 それひがた いきものいっぱい カブトガニ(こう野 みさき)
 それひがた いきてるかせき かぶとがに (ふか田 みき)
 それひがた いきものいっぱい つりたいな (ふか田 みき)
 カブトガニ ぜつめつきぐしゆ ながいきだ(上田 すずまさ)
 それひがた 生きものいっぱい カブトガニ(おそえ川 あおい)
 それひがた みんなだいすき お気に入り (原田 こはぎ)
 カブトガニ みんな大好き かわいいな (くぼ まなか)
 カブトガニ だいにまもる どうぶつも (まつ川 すずか)
 カブトガニ いっぱいいるよ それひがた(おの じゆんべい)
 カブトガニ いきものいっぱい それひがた (花田 海と)
 それひがた トビハゼいっぱい つりたいな (花田 海と)
 それひがた 生きたかせき カブトガニ (かとり なな)
 それひがた みんなでまもる カブトガニ (中村 ゆかり)
 それひがた トビハゼいるよ いわのうえ (日野 みのり)
 それひがた いきてるかせき カブトガニ(こうとく ゆうと)
 トビハゼが びよんびよんはねる トビハゼくん(早川 かい人)
 それひがた シオマネキが とことこ歩く (早川 かい人)
 それひがた ぜつめつきぐしゆ カブトガニ (つじ まさき)
 カブトガニ ぜつめつきぐしゆ ふやそうね(川ばた ゆうと)
 カブトガニ いっぱいいる それひがた(いけながし しょうた)
 カブトガニ きれいにしたら きもちいい (中川 穂香)
 曾根干潟 どんご集會 楽しみだ (登本 匠)
 曾根東 緑かこまれ 気持ちがいいよ (大久保 穂香)
 カブトガニ 絶滅危惧種と 生きた化石 (しげとう 大知)
 生き物が たくさんすんでる 曾根干潟 (鶴田 陽平)
 冬になる 野鳥観察 見に行くね (国広 美有)
 カブトガニ 絶滅危惧種の 一つだよ (浦野 虹希)
 曾根干潟 絶滅危惧種 カブトガニ (桑名 葵)
 曾根干潟 カブトガニ達 待っている (出雲 太朗)
 カブトガニ たくさんきたら うれしいな (田中 ゆい)
 ゴミ拾らい ぼくらでまもる カブトガニ (岡本 こうた)
 いきものが いっぱいいるよ 曾根干潟 (塩屋 さな)
 いつみても 海が広いよ 曾根干潟 (永野 雅崇)
 カブトガニ 絶滅危惧種 守りたい (中井 棕介)
 曾根干潟 絶滅危惧種 いるんだよ (川本 翔太)
 曾根干潟 みんなの宝 守ろうよ (大屋 健太)
 わたりどり たくさんくるよ 曾根干潟 (西村 ももか)
 曾根干潟 絶滅寸前 多すぎる (山田 音花)
 カブトガニ ぜつめつきぐしゆ すむところ (宮崎 達人)
 曾根干潟 ぜつめつきぐしゆ 守ります (宮崎 達人)

曾根干潟 生きた化石の カブトガニ (根本 鈴菜)
 曾根干潟 絶滅危惧種 住んでいる (馬場 春綺)
 生き物が たくさんいるよ 曾根干潟 (植木 倫花)
 カブトガニ 生きた化石と 呼ばれてる (福元 嵐士)
 きれいだな この上なした 曾根干潟 (川田 宗一郎)
 曾根干潟 生きた化石 カブトガニ (鍵本 翔平)
 冬になり 渡り鳥来る 曾根干潟 (森 唯花)
 スナメリも いるとウワサの 曾根干潟 (香取 すず)
 生き物 宝庫と呼ばれし 曾根干潟 (南園 響)
 曾根東 生きてる化石 守ってる (岩崎 太陽)
 曾根干潟 ぼくらみんなの 宝物 (中村 響介)
 渡り鳥 休けいの場は 曾根干潟 (中村 響介)
 カブトガニ 日本有数 聖地の場 (橋本 明侑)
 野鳥たち 外国からの お客さん (橋本 明侑)
 たくさん 生物がいる 曾根干潟 (奥浦智暉)
 カブトガニ 絶滅危惧種の 代表だ (浦本 桜生)
 曾根干潟 生き物いっぱい 守っていく (中島 美羽)
 カブトガニ かずすくないよ かわいそう (中島 美羽)
 曾根東 緑あふれる いいところ (柴田 理紗子)
 曾根干潟 絶滅危惧種の 宝庫だよ (木下 しおり)
 この干潟 地域みんなの 宝物 (中野 洋輔)
 子供たち みんなのために 清掃を (三代目 一俣)
 曾根干潟 北九州の 自然遺産 (三代目 一俣)
 カブトガニ 未来へ残す 曾根干潟 (三代目 一俣)
 曾根干潟 はるか未来へ 夢つなぐ (三代目 一俣)
 我が子らに 希望託し 曾根の海 (三代目 一俣)
 カブトガニ みつけたすごい めずらしい (しば山 あお生)
 それひがた いろんなさかな きれいだな (内田 あおい)
 それひがた きれいなうみで たのしいな (内田 あおい)
 それひがた しぜんがいっぱい しおまねき (前田 一俣)
 それひがた カブトガニがいっぱい しぜんだね(前田 一俣)
 それひがた いしのうえには とびはぜだ(さか田をおじろう) (さか田をおじろう)
 とびはぜが びよんびよんとぶよ それひがた (やなぎだしのすけ)
 それひがた シオマネキが いっぱいいるね (やなぎだしのすけ)
 それひがた だいすきわたし いきものよ (山田 夏佳)
 それひがた だろがいっぱい それひがた (山田 夏佳)
 それひがた 土がいっぱい すごいんだ (山田 き心)
 それひがた 水がいっぱい おぼれそう (山田 き心)
 それひがた 生きものいっぱい たのしそう (渡原 満理菜)
 それひがた 自ぜんがいっぱい うれしいな (渡原 満理菜)
 それひがた いきてるかせき かぶとがに (安田 まなみ)
 それひがた きれいなたから それひがた (安田 まなみ)
 わたしたち きれいなたから わかつたよ (くぼ さきえ)
 カブトガニ オスカメスが わかつたよ (くぼ さきえ)
 それひがた カニとかいっぱい それひがた (宮本 大己)
 それひがた クリーンさくせん きれいだね (宮本 大己)
 それひがた ぼくらちまもる クリーンさくせん (ふじ田 しゅう)
 それひがた いっぱいしぜん すごいから (ふじ田 しゅう)
 それひがた うみがひかるよ きらきらと (ふじ田 しゅう)
 それひがた しぜんがいっぱい たのしいな (ふじ田 しゅう)
 それひがた しぜんがいっぱい (しのはら たくみ)
 それひがた いきものいっぱい きもちいな(ながの すずか)
 それひがた 生き物いっぱい かわいいな(ながの すずか)
 それひがた わいわいがやがや たのしそう (出口 みゆう)
 曾根干潟には 生ものがたくさんいて たのしいよ (竹下 しずく)

そねひがた あのうちくしき よみがえる (えの本 て玉)
 トビハゼが はやくなるほど はやくなる (えの本 て玉)
 そねひがた 生きものいっぱい 楽しいな (杉本 俊輔)
 カブトガニ トビハゼ 生物をすみやすくる (松本 敢太)
 田や干潟 自然がいっぱい 曾根東 (中川 大地)
 生きものの かんきよう広く なかよしに(きゆうま けん生)
 そねひがた ぜつめつきぐしゆを たいせつに (きゆうま けん生)

そねひがた しぜんがいっぱい たのしいな (定行 高広)
 そねひがた いきてるかせき カブトガニ (定行 高広)
 そねひがた カブトガニやとびはぜ たくさんいる(平山紅葉)
 かんきようは むしや花が いっぱいだ (かわのひろき)
 そねひがた いきてるかせき カブトガニ (かわのひろき)
 つゆの雨 かえるよろこぶ 気持ちいな (国生 桜成)
 そねひがた どんこあそび たのしいな (国生 桜成)
 カブトガニ あまりいないが がんばって (きい まなみ)
 ひがたはね きようもきれい うれしいな (きい まなみ)
 曾根ひがた しぜんがいっぱい おもしろい (高橋 一太)
 曾根ひがた しぜんはきれい うつくしい (高橋 一太)
 そねひがた 自ぜんのなかで 生物がすむ所 (植田 昌奈)
 わたしたちで きれいにしよう そねひがた (植田 昌奈)
 カブトガニ たまごうむのは たいへんだ (宗 香菜子)
 鳥たちが 冬にあつまる そねひがた (宗 香菜子)

そねひがた すんでみたいな どのなか (野口 果蓮)
 そねひがた いきものいっぱい すんでよ (野口 果蓮)
 そねひがた しぜんがいっぱい きもちいな (山口 さくら)
 そねひがた しぜんがいっぱい うれしいな (たけの もゆ)
 そねのしぜん しぜんはきれい すみやすい (たけの もゆ)
 そねひがた しぜんのいきもの くらしている (たけの もゆ)
 (竹なが しょうご)
 そねひがた しぜんがおおく きれいだな (森田 しょう大)
 すいそうに カブトガニいて 大きなあ (稲垣 ひとみ)
 生き物が たくさんすめる 曾根干潟 (さとう ゆう人)
 曾根干潟には ぜつめつきぐしゆの カブトガニやトビハゼが
 います (松本 れい)

そねひがた すこしきたない どのうみ(くわ原 じゆんや)
 そねひがた ぼくらの町の たから物 (太田 凌介)
 そねひがた 水がみちれば しまいける(やす田 ともひろ)
 そねひがた ぼくらの大切な カブトガニ (鈴木 日優)
 そねひがた ゆたかなくらし カブトガニ (ふく田 らな)
 そねひがた いきてるかせき カブトガニ (ふく田 らな)
 カブトガニ 生きてるかせき そねひがた (石崎 はる)
 古だいから 生きつづけてる カブトガニ (井上 命)
 そねひがた すっぱりはまる どのの中 (高木 しょう矢)
 カブトガニ だろにまぎれて くつついた (高木 しょう矢)
 カブトガニ トビハゼいるよ そねひがた (みね岸 りお)
 曾根干がた ぼくらがまもる カブトガニ (おぐら ひ南)
 かぶとがに しぜんのくううきを すっている(さとう あき)
 かぶとがに 海のしぜんを している (さとう あき)
 生きものが どのくらいいる そねひがた (かじさ はるか)
 そねひがた しぜんいっぱい すごいよな (田中 真人)
 かぶとがに さわるとちくつ おもしろい (田中 真人)
 カブトガニ ひがたの生きもの まもってる (あべ 心)
 そねひがた しぜんいっぱい とりやかに (西川 晃太)
 カブトガニ ぜつめつきぐしゆ かっこいい (西川 晃太)
 カブトガニ からだがでかい かっこいい (山田 ひろき)
 だいすきな しぜんがすごい そねのまち (山田 ひろき)
 そね干がた みんなでまもる ゴミひろい (中野 匠)
 そね東 自由に生きよ 生き物よ (西おか 真さき)

曾根の町 自然がいっぱい 大好きだ (小せき 友あ)
 曾根東 自然いっぱい すてきだな (よぎ 天せい)
 カブトガニ いきものいっぱい たからもの (太田 あやめ)
 曾根干潟 自然いっぱい 楽しいな (ながまつ ひさし)
 守ろうね しぜんがいっぱい そねひがた (塚原 莉佳子)
 そねひがた ぼくらの自まんの カブトガニ (梅本 暖菜)
 そねひがた 生き物いっぱい 楽しいな (出雲 ゆう子)
 間島に行く いっぱい釣れた お魚さんだ (かとう つかさ)
 トビハゼは 遠くへとんで 旅行中 (しば田 りょうが)
 曾根ひがた かた手がデカイ シオマネキ(しば田 りょうが)
 そねひがた みんなで守ろう カブトガニ (匹田 大河)
 みぎでだけ とっても大きい シオマネキ (匹田 大河)
 カブトガニ 今も昔も 曾根干潟 (佐藤 栄作)
 渡り鳥 羽を休めに 曾根干潟 (佐藤 栄作)
 空を飛ぶ ズクロカモメの 下には干潟 (佐藤 栄作)
 そねひがた 生きて化石 カブトガニ (中村 勇斗)
 曾根干潟 かた手がでかい シオマネキ (中村 勇斗)
 そねひがた ぜつめつきぐしゆ 守りたい (ながの ゆうき)
 間島への 行く道のりは 遠いいな (ながの ゆうき)
 あまりいな ぜつめつきぐしゆに あいたいな(小石 歩実)
 スー—スー おおいできもちい スナメリくん(ふじ村じん)
 パタパタと あみのなかには カワヨウジ (ふじ村じん)

曾根ひがた トビハゼぶぶぶよ かわいいな(たかはし 菜摘)
 カブトガニ 赤ちゃんいっぱい かわいいな (金子 わか)
 カブトガニ あついででも 生きてる (みうら たくや)
 シオマネキ 大きなハサミで えものどる (みうら たくや)
 そねひがた はねてはねるよ トビハゼよ (馬こし ももか)
 冬の空 ズグロカモメよ はばたくよ (馬こし ももか)
 鳥たちが いつもあつまる そねひがた (梶原 侑華)
 カブトガニ 大量殺せい うれしいな (梶原 侑華)
 そねひがた いきものたちが たからもの (とみまつ のあ)
 とりたちが あつまってくる そねひがた (とみまつ のあ)
 曾根ひがた 野鳥かんさつ とりいっぱい (小野 あおり)
 そねひがた 鳥がいっぱい ツクシガモ (岸本 将)
 カブトガニ 一つのとげとげ いたすぎる (吉村 まさと)
 シオマネキ 大きなハサミとくちよう (吉村 まさと)
 そねひがた いつもきれいに どのなか (三井 英)
 カブトガニ ぜつめつきぐしゆで 守りたい (川ばた 大と)
 そねひがた いっぱい手をふる シオマネキ (川ばた 大と)
 たのしい どのこども あるくの大変 (有田ゆう太)
 赤ちゃんの カブトガニは かわいいな (谷本 かんを)
 カブトガニ 君はいつから 生きてるのかな (谷本 かんを)
 カブトガニ 足がすごいね すごい数 (ふじた かいと)
 トビハゼは ビヨンビヨンはねる すぐれ者(ふじた かいと)
 曾根干潟 ぜつめつきぐしゆの 宝箱(渡辺 涼太)
 川にあみ 入れたらなんと 生き物が(渡辺 涼太)
 曾根干潟 じまんのカブト 守りたい(古川 由樹子)
 そねひがた しぜんを守る カブトガニ (石ざき かおる)
 守りたい 自ぜんがいっぱい 曾根干潟 (坂根 寛太)
 そねひがた ぜつめつきぐしゆ カブトガニ (植木 真や)
 キラキラと すてきなばしよ そねひがた (植木 真や)
 そねひがた だろがいっぱい たのしいな (かい ののは)
 そねひがた だろがいっぱい たいへんだ (かい ののは)
 すぐそこに ましまが見える 曾根ひがた (おぎう あんじ)
 曾根ひがた さかながいっぱい およいでる (おぎう あんじ)
 そねひがた だろがいっぱい たのしいな (堀 駿介)
 カブトガニ いなくなるな おねがいです (富山 大和)
 そねひがた ズグロカモメが とんでくる (福田 汐桜里)

秋の空 羽を休めに 曾根干潟
渡り鳥 恵み豊かな 曾根の海
朝夕の 空を眺める かぶとがに
遠足で 皆で行った 曾根干潟
曾根干潟 一日二回しか 見えん！
かぶとがに ぜったいとるな ばちあたる

(瓜生 資織)

(柏田 知甫)

(小田 真也)

(濱田 あゆみ)

(ぼちぼち)

(オオサキ ノブタカ)

(ぼるちゃん)

(ぼるちゃん)

(宮城 踏青)

(川越 和宣)

(吉村 武俊)

(安田 哲秀)

(藤岡 弓子)

(行村 真)

空港の 橋より長い 曾根干潟
天高し 海女の住み家の 風見鶏
千年の 潮の満干や 曾根干潟
狙ふ餌 百発百中 鴨の狩
月光や 鳥浜の浮く 周防灘
渡り鳥 魚を食べに 曾根干潟
カブトガニ 今も昔も 曾根干潟
羽休め 鳥のオアシス 曾根干潟
行ってみよう 家族みんな 曾根干潟
よみがえれ きれいな海で カブトガニ
今までは 知らずにいたよ 曾根干潟
忘れたい キレイナ干潟 曾根干潟
潮引さし 干潟に光る マテの貝
曾根干潟 朝日が明かる さざ波に
カブトガニ 食べてみたいな 曾根干潟
一線の 朝にかがやく 曾根干潟
カブトガニ プカブカ浮いてる 曾根干潟
出会えます レアな生物 曾根干潟
わが町の 泥の樂園 曾根干潟
行ってみると 感動しますよ 曾根干潟

(カブトムシ2号)

(加藤 誠二)

(加藤 誠二)

(加藤 誠二)

(加藤 誠二)

(加藤 誠二)

(ぼちぼち)

【川柳の部 曾根干潟と自然部門】

いきものが たくさん住める 曾根の海
清風が 干潟のいのち ふくらます
干潟満ち 海鳥啼けば 僕笑う
引き汐の 獲物着に コップ酒
カブトガニ 先祖は一緒 君と僕
我が曾根の 観光大使 「カブトガニ」
曾根干潟 匂いかすかに 渡り鳥
生き物を 育む干潟 守る彼
いざさらば 家族を増やせよ カブトガニ
たくさん 生き物集う 曾根干潟
守ろうよ とても貴重な 曾根干潟
曾根干潟 帰ってこいよ カブトガニ
曾根干潟 一緒に守ろう カブトガニ

(ベットボトル)

(古谷清)

(悦郎)

(悦郎)

(悦郎)

(矢野 武志)

(吉富 廣)

(米光けい)

(録田 真由子)

(カネヤト アユ)

(木田 丈博)

(村上 月草)

()

()

()

()

()

()

()

()

()

()

()

()

()

()

()

()

()

()

()

()

()

()

()

()

()

【俳句の部 曾根干潟と経済との関わり部門】

秋麗の 干潟を跨ぐ 釜山便 (耕ちゃんママ)
盆東風や 大漁兆す 枳網漁 (耕ちゃんママ)
曾根の田を 支える水がめ 昭和池 (松田健作)
工場群 屋敷楼めき 大千潟 (大庭隆子)
わがまちの けいざいになう そねひがた(オオサキノブタカ)
埋め立てて 地域経済 活性化か? (川越和宣)
曾根人が 暮らす礎 干潟かな (小森)
産業と 共存してる 曾根干潟 (越智芳浩)
飛行機を みなから観るよ 曾根干潟 (越智芳浩)
上空で 干潟眺める シティボーイ (カブトムシ1号)
モーターウン 干潟専用 作ってよ (カブトムシ1号)
カブトガニ 東京行ききの 夢を見る (カブトムシ1号)
次期待 ガタリンビツクの 閑催地 (カブトムシ1号)
曾根干潟 色々あるぞ 名物が (ぼちぼち)
見つけたよ 観光スポット 曾根干潟 (ぼちぼち)

【川柳の部 曾根干潟と経済との関わり部門】

曾根の辛 カキカニアオギス カブトガニ (若田健浩)



【俳句の部 曾根干潟と人のくらし部門】

そねひがた きれいにしよう たいよね (大里 夏実)

そねひがた きれいにしよう きれいだな(しば山 あお生)

そねひがた きれいにしよう たのしみだ (さか田 なおじろう)

そねひがた きれいにしよう おもしろい (しのはら たくみ)

そねひがた きれいにしよう (杉本 俊輔)

そねひがた きれいにしよう (中川 大地)

そねひがた きれいにしよう (平山 紅葉)

そねひがた きれいにしよう (山口 さくら)

そねひがた きれいにしよう (森田 しよう大)

そねひがた きれいにしよう (稲垣 ひとみ)

そねひがた きれいにしよう (柳橋 美月)

そねひがた きれいにしよう (西村 風花)

そねひがた きれいにしよう (松本 れい)

そねひがた きれいにしよう (太田 凌介)

そねひがた きれいにしよう (小南 かりん)

そねひがた きれいにしよう (赤ぎ ゆうき)

そねひがた きれいにしよう (赤ぎ ゆうき)

そねひがた きれいにしよう (鈴木 日優)

そねひがた きれいにしよう (井上 命)

そねひがた きれいにしよう (山本 こうすけ)

そねひがた きれいにしよう (山本 こうすけ)

そねひがた きれいにしよう (寺村 光世)

そねひがた きれいにしよう (しおや よう平)



そねひがた きれいにしよう みんなでね (かき本 み羽)

がんばる子 きれいにしよう そねひがた (ひきもり のあ)

ごみひろい いろいろひろう がんばろう (ひきもり のあ)

そねひがた いつもおそうじ きれいだね (丸形 ななみ)

ともだちと あそびべんきよう たのしいね (丸形 ななみ)

カブトガニ あいさつしよう そねひがた (あまの ゆりあ)

いい気持ち きれいにしよう がんばろう (あまの ゆりあ)

カブトガニ いろんないきもの をまもろう (かき本 かずよし)

ゴミひろい きれいにしよう そねひがた (かき本 かずよし)

そねひがた わたしがまもる クリーンさくせん (こいずみ 夏よ)

そねひがた だいすきなどろんこしゅうかい たのしみだ (こいずみ 夏よ)

シオマネキ ちよさちよさきられる どろんこしゅうかい (山下 ふうか)

どびはぜを みんなでまもる ぼくたちも (さかき あいり)

カブトガニ いきてるあかし まもるため (さかき あいり)

わたしがね きれいにしよう 曾根干潟 (山口 きょう子)

そねひがた きれいにしよう クリーンさくせん (かわの し音)

そねひがた いきもの大せつ クリーンさくせん (みつい あみ)

友だちえがお いきものえがお えがおきらきら (みつい あみ)

そねひがた どろんこしゅうかい たのしいな (中村 かなと)

遺そうよ 暮らしのだから 曾根干潟 (小崎 国雄)

そねひがた 守る会員の しあんがお (松井ミヤ子)

カブトガニ 命つなぎあう 親子 (竹下 美智子)

我ふるさと 億年をこえて 曾根干潟 (竹下 美智子)

曾根ひがた クリーンさくせん たいへんだ (おかの りな)

ぼくたちで がんばり守る 曾根干潟 (青井 海月)

ゴミひろい ゴミがいっぱい たいへんだ (うら野 美月)

曾根干潟 ごみがたくさん おちている。 (なす りさ子)

曾根干潟 クリーン作戦 がんばるぞ (那須 裕)

曾根干潟 生き物たちの いこいの場 (中川 穂香)

曾根干潟 キレイにするぞ いっしょに (興儀南)

そねひがた きれいにしようよ いつまでも (原田 こはぎ)

ごみひろい クリーンさくせん がんばろう (おぎゆう ひなた)

そねひがた きれいにしよう いい気持ち (おく村 さよ)

曾根干潟 クリーン作戦 がんばろう (登本 匠)

曾根干潟 たくさんいるよ 生き物たち (大久保 穂香)

クリーン作戦 ゴミなくすため がんばろう (しげと 大知)

そうじて 干潟の生き物 助けよう (鶴田 陽平)

ゴミ拾い みんなで守る 曾根干潟 (国広 美有)

曾根干潟 びかびかにして 気持ちいな (浦野 虹希)

曾根干潟 クリーン作戦 がんばるぞ (桑名 葵)

くらしでは いろんな事が 待っている (出雲 太朗)

曾根干潟 年に何回の クリーン作戦 (田中 ゆい)

ゴミ拾い 干潟をきれいに せいせつに (岡本 こうた)

ごみへらし きれいなひがた つくろうよ (塩屋 さな)

生き物を 助けるために クリーン作戦 (永野 雅崇)

海の幸 ごみをなくして たすけよう (中井 棕介)

カブトガニ アオサを取って 守りましょう (川本 翔太)

ゴミ拾い 生き物たちを 守るため (原 侑生)

曾根干潟 みんなで守る クリーン作戦 (大屋 健太)

曾根干潟 少しはきれいに なりました (西村 ももか)

わたしたち 年に何回の そうじ隊 (山田 音花)

曾根東 クリーン作戦 がんばるぞ (宮崎 達人)

守ろうよ 豊かな自然 クリーン作戦 (根本 鈴菜)

アオサ取り 産卵しやすい 安心だ (馬場 春綺)

曾根干潟 きれいにしよう クリーン作戦 (植木 倫花)

ごみ拾い 干潟を守る クリーン作戦 (福元 嵐士)

曾根干潟 クリーン作戦 よってきて (川田 宗一郎)

生き物を 守っていきこう 曾根干潟 (鍵本 翔平)

アオサ採り 産卵来る カブトガニ (森 唯花)

町の人 みんな大好き 曾根干潟 (香取 すず)

カブトガニ がんばりがいい気持ち (南園 響)

曾根干潟 みんなの力で 美しく (奥浦智草)

みおろせば 歴史が分かる 北九州 (ぼちぼち)

やりました 環境委員 曾根干潟 (ぼちぼち)

曾根干潟 知ってもらうため わ歌募集 (ぼちぼち)

しおひがり マテ具取ったら 砂だらけ (ぼちぼち)

パソコンで はじめてけんさく 曾根干潟

(ピンクのしゅうちゃん)

【川柳の部 曾根干潟と人のくらし部門】

曾根干潟 知らなかった 広めたい (カーネル・サンダース)

次世代に のこす元気を 曾根干潟 (古谷清)

曾根干潟 家族みんなを 幸だ (悦郎)

曾根干潟 別れる頃は 日焼け顔 (悦郎)

なつかしい 曾根干潟見て 思い出す (大谷 将寿)

【短歌の部 曾根干潟と自然部門】

曾根の海 生物たちと 人間の 心をつなぐ 夢の架け橋 (山田 宜典)

貴重な 生物たちの 集まりし いのち育む 遠浅のうみ (山田 宜典)

カブトガニ 今も昔も 曾根干潟 残していこう みんなの希望 (山田 宜典)

干潟まで 命を運ぶ 竹馬川 歩いて行こう くじら島まで (悠羅江門)

いにしへの 姿を残すかぶとがに 未来へ残そう 曾根の宝物 (青本悦子)

銀色に ひかる翼を 見送りにて カモメの親子 空を掴むる (だばん)

モノクロの 飛行機舞う 空の下 色とりどりの 命萌ゆゆ (豊川智秋)

その昔 曾根新田と 言いしより 面影いざこ 干潟にかすむ (松本恵美子)

夕映えは 干潟のくまぐま 染めあげて 苗になかを 陽は沈みゆく (佐々木功)

干潟には じつと潮待つ 青鷺が 今日命を 継がんが為に (阿部洋六)

待ち遠しい 渡りの季節 曾根干潟 何羽来るかな 絶滅危惧種 (根本成子)

化石とも 呼ばれて生きる 胃蟹 曾根干潟には 水鳥も舞う (有働道高)

太古界 胃蟹棲む 曾根干潟 広がり走る 水鳥のむれ (有働道高)

うけ継いで 未来に贈る 胃蟹 曾根の干潟に 水鳥の声 (有働道高)

間島かこみ 広がるはても 曾根干潟 竹馬や貫の 流れに生きて (有働道高)

遠き日に 曾根の干潟を そめしとふ シチメン草の くれなるを恋へふ (亀山久美子)

汗かきつ 周防の磯根に カニ追わば 貫の山より シギの舞い降り (あおのさと)

はろばると 時のさざ波 寄する潟 命繋て 兜蟹超し (谷口啓子)

兜蟹 歳奥の時を 繋ぎて この潟に宇宙なる 命運び来しもの 亥ざいかん 足立の古き けもの道 (谷口啓子)

かえり見ませば 曾根路に春 曾根干潟 在りし日の姿に 戻すは (上田 喜代子)

干潟にて 生息するは カブトガニ 珍しきこと 限りなしな (佐藤 栄作)

沢蟹の啄ばむ小鳥 凜として 友に誘われ いざはばたかん (ニジジマ)

古い史が 刻まれている 曾根干潟 天長地久 美しい (ああああ)

古(いにしえ)の にぎわい 香る 曾根干潟 今も変わらず 楽しそうね (小嶋 やすし)

広大な 干潟広がる 小倉の海 自然おりなす 神秘の地 (増田 智世)

曾根東 守っているのは 曾根干潟 生きてる化石の 宝庫でもある (岩崎 太陽)

みんなをね 仲良くくらし たのしんで 楽しい一日 曾根干潟達 (中島 美羽)

曾根干潟 絶滅危惧種 あつまるよ (柴田 理紗子)

ダイシャクシギに ズグロカモメも 曾根干潟 色んな生き物 いっぱいだ (中野 洋輔)

これだよまさに みんなの樂園 曾根干潟 みんなの宝 守ろうよ 生きてる化石 カブトガニ (前田 輝星)

自然いっぱい いざい曾根干潟 曾根干潟 ぼくらのたから カブトガニ (植木 倫花)

生きた化石が 干潟にいるよ 曾根干潟 ぜつめつ老懼種の カブトガニ (大久保 穂香)

ゆつくりできる 良き住かなり 曾根干潟 いたたかせきの カブトガニ (岡本 航汰)

ほかにもいるよ ぜつめつ老懼種 曾根干潟 いろいろあるよ でもやっぱ (南園 ひびき)

カブトガニ 曾根干潟の 宝物 かわいい生物 たくさんいるよ (宮崎 達人)

うれしいな 近くの自然が きれいだな 曾根干潟 みんなが知ってる カブトガニ (鍵本 翔平)

かわい生物 たくさんいるよ 曾根干潟 ナンバーワンは 生物たちだ (川田 宗一郎)

これからもずっと 長生きしてね 曾根干潟 自然豊かな 曾根干潟 (原 侑生)

生物豊かき 征しとなりて 渡り鳥 干潟において 餌さがす (馬場 春綺)

やさしき海と 人の温もり 空の青 今に残せし 曾根干潟 (秋吉 澤子)

未来につなぐ 宝の海よ さららかに 潮引きゆく 曾根干潟 (秋吉 澤子)

憩ひの鴨ら 数を増し来ぬ 生きものに 恵みもたらす 曾根干潟 (都甲 真紗子)

次代につなげ 保存のバトン あまたなる 海を連れし カブトガニ (野津 紫子)

曾根干潟にぞ 命をどどむ 人と人 海山川を 織り交せて (木下 幸則)

時にたゆたう 曾根の淡海 渡り鳥 曾根の干潟で なに思う (曾根の侘助)

いつかきれいな うみに戻れよ 朽網(くさみ) 曾根 貫は山蜘蛛伝説の (ばるちゃん)

沖から眺む 古(いにしえ)の里 生き物が 心地よく住む 曾根干潟 (沖野(旧増田) 徳子)

北九州の 環境豊かに 曾根東 自然豊かな この地区は 緑が多くて (西村 ももか)

曾根干潟 たくさん集まる 生き物は 守っていくべき 大事な宝 (根本 鈴菜)

曾根干潟 生きた化石 カブトガニ 守っていくぞ ゆたかな自然 (永野 雅崇)

百万の 人材溢る わが街と ともに歩みし 曾根の宝海 (田中 浩二)

曾根干潟 自然あふれる いきものの 宝庫となりて 永久に響けり (川井 基嗣)

いくせんの 時をかんでて カブトガニ 沈む夕日も 曾根干潟知る (岸川)

生き物が 昔から住む 海のみやこ 曾根の干潟を 皆で守ろう (柚木)

沢山の 生命(いのち) がやどる 曾根の海 元氣の源 明日への力 (カブトムシ1号)

機窓から お帰りなさいと 曾根干潟 元気の源 明日への力
(カブトムシ1号)

悠久の さぎなみをさく 曾根干潟 人の営み 感じもせず
(中山裕三)

入ったら どんこんになる 曾根干潟

子供も大人も みんな笑顔に

(野上裕貴)

曾根干潟 歩いたことは ありますか

油断してると どんどんしずむよ

(川本壮一郎)

数年の 星を見たか 曾根干潟 変わらぬ姿

永久に続け

幼き日 友と遊んだ 曾根干潟 話す自分は 孫の顔

(松浦晃子)

幼き日 友と遊んだ 曾根干潟 話す自分は 孫の顔

(岡 勝一)

【短歌の部 曾根干潟と経済との関わり部門】

遠浅の 空の客へも 潮まねき

(拙州)

曾根干潟から みなおもてなし

古えの 生きる源 曾根干潟

孫にも見せたい 未だまで続け

雨の日も 国内国際線 飛ぶや

空港迫る 曾根干潟こえ

早朝に 曾根の干潟に 耕運機

牡蠣の収穫 大漁まちて

今日も又 飲んで味わう 故郷の

牡蠣を着に ほろ酔い気分

冬が来て 故郷つなぐ 牡蠣の味

かぶとがに曾根の 干潟は宝物

曾根干潟 潮の恵で カキ育て

未来に残せ カニカキロード

新空港 一粒の幸 もたらせば

かきのあつさも 耐え忍ばれん

赤い鶴 黒い翼が 人を乗せ

青い空へと 旅立つ鳥よ

苧田町 橋を渡れば 北九州

どちらに払う キツイ税金

曾根干潟 曾根東地区の ひどびとの

漁業を支える 大事な干潟

(ヤノマサ)

(有働道高)

(秋吉 澤子)

(秋吉 澤子)

(秋吉 澤子)

(小川 明義)

(曾根の侘助)

(小森)

(ぼちぼち)

(森 唯花)



【短歌の部 曾根干潟と人のくらし部門】

私達 育ててくれた 曾根干潟 恩返し
クリーン作戦 (城音)

あれは鳥 いや船だと 老夫婦
挨拶交わす 海風の道 (ばるちゃん)

カブトガニ 追い遊びたる 曾根干潟
今は生存 日本一とう (●)

幼日に 母の手作り なつかしく
曾根の干潟の カブトガニ汁 (●)

書道展に テーマ故里 「曾根干潟」と
飛びかう海鳥 イメージ筆とる (●)

真鳥見ゆ 曾根の干潟に 佇めば
カブトガニ 追いつく 父の背愛し (●)

幼より 新田の肴 好物よ
体の強きは そのおかげかな (●)

秋深む 海どり遊ぶ 白砂に
遠き日恋いうる 曾根の日潟よ (●)

嬉しき時 悲しき時も 佇めば
心の広がる 曾根の干潟よ (●)

せいそうで みんなで守る 曾根干潟
クリーン作戦 エイエイオー (●)

いつまでも きれいな干潟 守るため
リネットパワーで クリーン作戦 (●)

曾根干潟 ゴミをすてたら 生き物が
いなくなるから やめようよ (●)

カブトガニ 絶滅危惧種の 生き物で
守るためには クリーン作戦 (●)

曾根干潟 曾根東小の 宝物
クリーン作戦で きれいにするぞ (●)

潮引きて 子どもの手を引き 砂を踏む
今も昔も 曾根の干潟に (●)

左手に 海の見ゆる 一本道
胸に刻む ふるさとのほひ (●)

曾根干潟 鳥や生きもの かこまれて
行くと心が きれいになるよ (●)

曾根干潟 生き物たちの 家であり
子どもが学ぶ 所でもあり (●)

私たち 干潟とふれあい 自然を学び
お礼に干潟を 清掃します (●)

人々が 協力しあい 曾根干潟
今でも自然や 生物がある (●)

曾根干潟 もっときれいに するため
クリーン作戦 みんなでがんばる (●)

曾根干潟 ゴミがいつばい 集まって
それを回収 クリーン作戦 (●)

曾根干潟 ゴミのこらす 拾いましょう
そのゴミの 自然を守りつく (●)

曾根干潟 ばくらの自然 守りつく
みんなの力 クリーン作戦 (●)

曾根干潟 きれいな干潟 ばくたちで
もっときれいに クリーン作戦 (●)

曾根干潟 クリーン作戦 がんばって
みんなを守る ぜつめつきぐしゅ (●)

曾根干潟 ゴミがいつばい 大変だ
力を合わせ たくさんひろおう (●)

たくさん 自然がいつばい 曾根干潟
住んでる生き物 ゴミ拾い守る (●)

曾根干潟 クリーン作戦 がんばって
住めるようになった 生き物たち (●)

曾根干潟 曾根地域のひと 力を合わせ
干潟を守ろう ミッションだ (吉村 天那)

いつまでも クリーン作戦 続けよう
町のみんなが いきものがかり (坂根 陽子)

故郷を 遠く離れし 子や孫の
話は付きぬ 曾根の干潟よ (佐藤 重光)

豊稔の曾根の干潟 限りなく
幾代の育み 百万招く (吉崎 順子)

ごみ集め 心を集め 変わりゆく
曾根の干潟に 灯る灯火 (曾根の侘助)

潮引いて 現る命の 曾根干潟
キラキラ輝く 我らの宝 (ハルオ)

そねひがた みんなできれいに そうじしよう
ゴミをへらそう クリーン作戦 (福田 汐桜里)

みんながた みんなできれいに クリーン作戦
わあうれしい生き物 いっぱいよろこんでる (高嶋 邑恭)

そねひがた カブトガニの さんらんち
ゴミをすてずに クリーンさくせん (河西 玲那)

曾根ひがた カブトガニたち 守りたい
クリーン作戦 がんばるぞ (元藤 彩羽)

曾根干潟 いきものいっぱい いるんだよ
みんなで作ろう クリーン作戦 (南 鈴汰)

曾根ひがた カブトガニの あかちゃんを
まもるためには クリーン作戦 (野田 有希)

そねひがた ああそねひがた そねひがた
まだいきてくれ このよのために (岩崎 大輝)

曾根干潟 クリーン作戦 人間も
心がきれい 干潟もきれい (山田 音花)

曾根東 豊かな自然 まもるため
今日もみんなで 活動中 (朝野 里緒)

ごみひろい いっぱいひろい いきものの
いのちをたすけ まもろうひがた (塩屋 さな)

引越して 曾根干潟にて 終とする
人も自然も のびのび育つ (ヤノマサ)

カブトガニ いざれの軒にも 下りおり
はちがめの菓子 今や懐し (松本恵美子)

白さぎの 足跡たどり ぬかるみの
自然とたわむれる 幼な子の如 (松本恵美子)

後来も 子どもの声が こだまする
街も干潟も 明るくそめて (谷口泰正)

かぶとがに 捕り手遊んだ 夏休み
今は昔の 思い出となり (秋吉澤子)

温もりと 恵みをくれた 故郷の
曾根の干潟は 心の海よ (秋吉澤子)

昇る陽に 真つ赤に染まる 曾根の海
今日も朝から 三文の得 (だばん。)

昇る陽に 昨日の自分を 捨て去って
己の使命に 打ち震えるなり (だばん。)

朽網から はるかに望む 空港島
夢か幻 蜃気楼かも (だばん。)

曾根干潟 はしやぎとび 沙魚進いし
日の潮の匂いに 夫の徳ぶ今 (波多野良子)

そねひがた グリーン作戦の 子供の声
袋いっぱい ごみの山 (松井ミヤ子)

曾根の海 自然が育む 名産地
山の幸あり 海の幸あり (山田 宣典)

曾根干潟 環境都市の シンボルと
なつてほしいと みんなの願い (山田 宣典)

吹き抜ける 青いそよ風 追いかけて

ペダルこぐ音 ひばりのごとし

(だばん。)

変わらぬは 想ひ出 つなぐ 曾根干潟

孫にも見せたい 母の思い

(ミオパン)

碧空と なかよしこよし 曾根干潟

我ふるさとは ここにあり

(おおつば)

夕焼けの 虹かがやく 曾根干潟

ここにしみる 思ひ出の地

(おおつば)

昔から 皆を見守る 曾根干潟

昔懐かし 大自然

(おおつば)

古きから 変わらぬ姿の カブトガニ

古き良き街 北九州

(カブトムシ号)

お父さん ついに見つけた 貝振りの

極意は 曾根の干潟かな

(ほーねん)